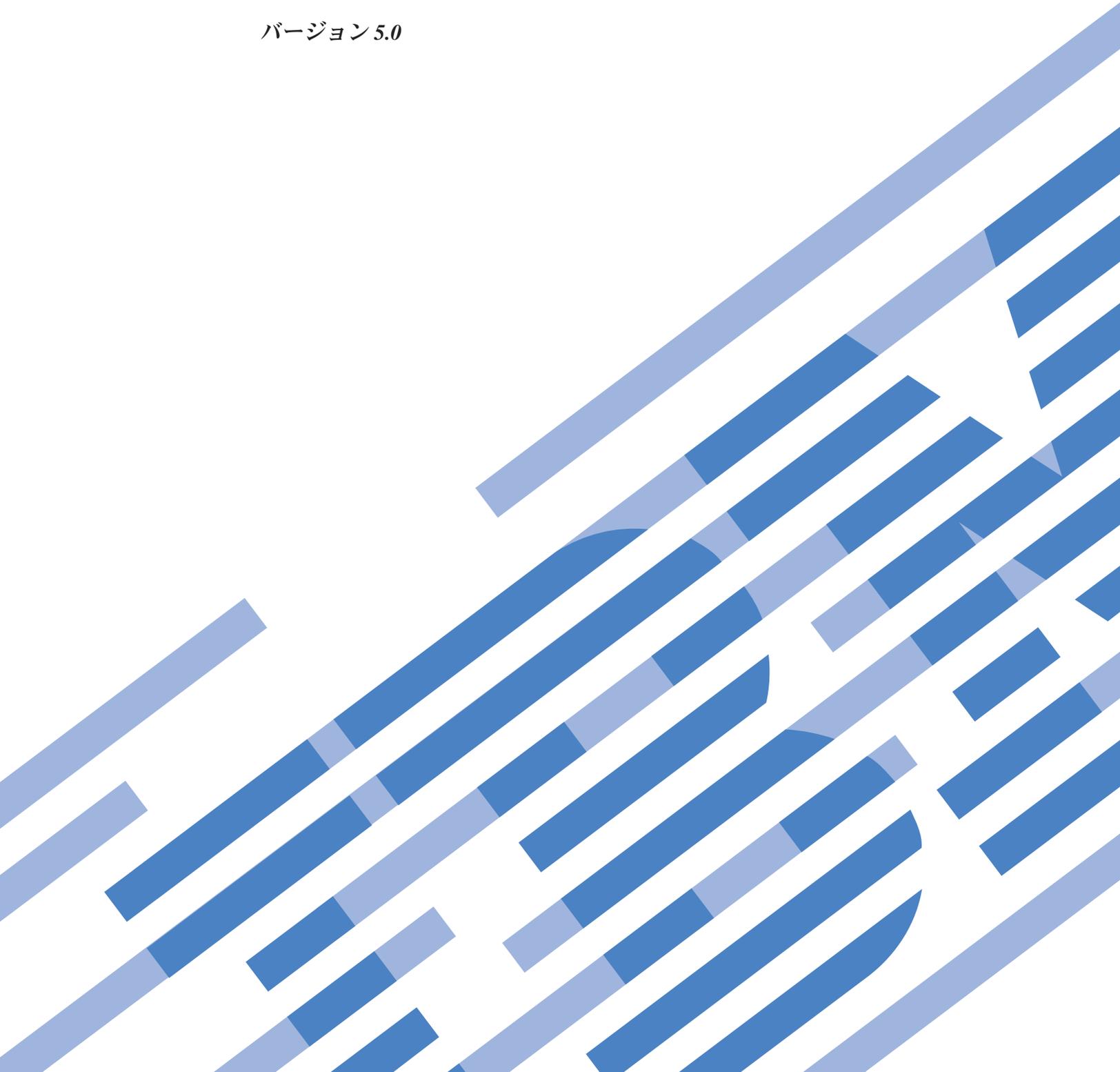




IBM System x

**IBM Deployment Pack for
Microsoft System Center Configuration Manager
リリース情報**

バージョン 5.0





IBM System x

**IBM Deployment Pack for
Microsoft System Center Configuration Manager
リリース情報**

バージョン 5.0

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

Edition Notice

This edition applies to version 5.0 of the IBM Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

The following paragraph does not apply to any country (or region) where such provisions are inconsistent with local law.

INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION PROVIDES THIS PUBLICATION “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some states (or regions) do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions; therefore, this statement may not apply to you.

Order publications through your IBM representative or the IBM branch office serving your locality.

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックslashと表示されたり、バックslashが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM System x
IBM Deployment Pack for
Microsoft System Center Configuration
Manager
Release Notes
Version 5.0

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.11

© Copyright IBM Corporation 2012.

目次

本書について	v	第 1 章 本リリースの新機能	1
規則および用語	v	第 2 章 既知の制限、問題、および回避策	3
情報リソース	vii	特記事項	19
PDF ファイル	vii	商標	20
World Wide Web リソース	viii		

本書について

これらのリリース情報には、IBM® Deployment Pack for Microsoft Configuration Manager の最新情報が記載されています。

規則および用語

太字の「注」、「重要」、または「注意」で始まっているパラグラフは、重要な情報を強調する特定の意味を持つ注意書きです。

注: これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供しません。

重要: これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。

重要: これらの特記事項では、プログラム、デバイス、またはデータへの考えられる損傷を示します。損傷が起こりうる指示または状態の前には警告通知が表示されます。

本書で使用されている用語、頭字語、および省略語のいくつかについて、下の表で説明します。

表 1. 用語、頭字語、および省略語

用語/頭字語	定義
RAID	Redundant Array of Independent Disks
RSA	Remote Supervisory Adapter
OSD	Operating System Deployment
SCCM	Microsoft System Center Configuration Manager
SEP	System Enablement Pack

情報リソース

IBM Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 に関する追加情報は、製品資料および WWW 上で入手することができます。

PDF ファイル

PDF 形式で提供されている資料を表示および印刷します。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

PDF ファイルを表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。コピーを Adobe Reader Web サイトからダウンロードすることができます。

PDF ファイルの表示と印刷

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions Web サイトにある PDF ファイルは、すべて個別に表示または印刷が可能です。資料ごとの製品ページを見つけるには、用意されているリンクをクリックしてください。

PDF ファイルの保存

PDF ファイルを保存するには、以下の手順に従ってください。

1. ご使用のブラウザで、PDF へのリンクを右クリックします。
2. 以下のいずれかのタスクを実行します。

Web ブラウザー	コマンド
Internet Explorer の場合	「名前を付けて保存」をクリックします。
Netscape Navigator または Mozilla の場合	「リンク ターゲットに名前を付けて保存」をクリックします。

3. PDF ファイルを保存するディレクトリーに移動します。
4. 「保存」をクリックします。

World Wide Web リソース

以下の Web ページには、IBM System x、BladeCenter[®] サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが用意されています。

IBM Systems テクニカル・サポート・サイト

IBM サポート・ポータル

IBM ハードウェアおよびシステム管理ソフトウェアのサポート情報が見つかります。

Microsoft Systems Management Solutions for IBM Servers 用の IBM Web サイト

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions

IBM システム管理およびシステム展開ソフトウェアをダウンロードします。

IBM システム管理

IBM System Systems Management

このページには、IBM ツールおよび IBM Deployment Pack for Microsoft Configuration Manager による、IBM システム・デプロイメントの概説があります。

IBM ServerProven[®]

IBM ServerProven Compatibility for hardware, applications, and middleware

IBM System x[®]、IBM BladeCenter、および IBM IntelliStation[®] ハードウェアとのハードウェア互換性に関する情報があります。

Microsoft System Center Configuration Manager

Configuration Manager 2007 Documentation Library

Microsoft TechNet: System Center Configuration Manager

製品のホーム・ページから Microsoft System Center Configuration Manager に関する情報を入手します。

System Center Technical Documentation Library

Microsoft TechNet: Configuration Manager Documentation Library

資料のライブラリーから Microsoft System Center Configuration Manager に関する情報を入手します。

第 1 章 本リリースの新機能

このセクションのトピックには、IBM Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 に関する情報があります。

この製品は、System Center Configuration Manager 2007 と、System Center Configuration Manager 2012 および 2012 R2 をいずれもサポートしています。System Center Configuration Manager 2012 R2 の最新バージョンもサポートされています。

第 2 章 既知の制限、問題、および回避策

IBM Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager に関連する、いくつかの既知の制限および問題が、対処に役立つ情報および回避策とともに示されています。

制限

IBM Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 には以下の制限が該当します。

SCCM 2007 における、アドバタイズ・タスク・シーケンス用のコンテキスト・メニュー機能での制限

アドバタイズメントを無効にすると、以下の症状が発生します。

「いいえ」を選択することによってアドバタイズ・タスク・シーケンスを無効にすると、管理コンソールがハングする場合があります。

症状: 次の手順を実行したときに、この障害が発生する可能性があります。

1. 「System Center Configuration Manager」 > 「サイトデータベース」 > 「コンピュータの管理」 > 「ソフトウェアの配布」 > 「提供情報 (Advertisement)」を選択する。
2. リストに表示されているタスク・シーケンスを右クリックする。
3. 「タスク シーケンスの無効化」を選択する。
4. 表示されたダイアログの警告に対して「いいえ」を選択する。コンソールに砂時計が表示されますが、想定される時間内に制御は戻りません。

説明: この問題については調査中です。

処置: この問題が発生した場合は、コンソール・セッションを手動で停止してから、コンソールを再始動してください。

IBM Advanced Settings Utility での制限

以下の ASU 制限は、オペレーティング・システム・デプロイメントの間に行われた ASU コマンドの動作または結果に影響することがあります。

ベースボード管理コントローラー (BMC) およびリモート監視アダプター (RSA) では、コマンド `ASU loaddefault` によってすべての属性をデフォルト値でロードすることができません。

症状: デフォルト値がないため、いくつかの属性の値はオリジナルの値にリセットされません。

説明: これは所定の動作です。BMC および RSA のすべての属性が、サブシステムごとの DEF ファイルにデフォルト値を持っているわけではありません。

ASU ツールが、IPMI コマンドおよび RSA コマンド (それぞれ BMC と RSA) を実行することによって値を設定し、設定に対する変更を開始します。サブシステムごとの DEF ファイルの一部に、このような場合に ASU が使用するデフォルト値が入っています。

処置: DEF ファイルで、デフォルト値を持っていない属性を調べてください。必要であれば、それらの値を手動で変更してください。

ブレード・サーバーで、いくつかのブート設定が CMOS から BMC に変更されています。

症状: ASU を使用して CMOS_PrimaryBootDevice* 値を変更すると、ターゲット属性が見つからないことを示すエラーが ASU から報告されます。

説明: 現在、いくつかのブレード・サーバーでブート設定 CMOS_PrimaryBootDevice* は使用されていません。BMC_PrimaryBootDevice* 設定が使用されています。

処置: エラー・メッセージが出された場合は、代わりに BMC_PrimaryBootDevice* 設定を変更してください。

BMC_NetworkIPAddress と他の関連属性をブレード・サーバー上で変更することはできません。

症状: ASU で値を変更することはできますが、ブレードをリポート後、管理モジュールは値を元の値に戻します。

説明: BladeCenter シャーシ・ユニットでは、これらの属性は管理モジュールによって制御されています。

処置: 管理モジュールを使用して、値を変更してください。

いくつかの IMM 値は、IBM デプロイメント・アクション「IMM Config (Set)」では変更できません。

症状: いくつかの IMM 値が「noreplicate」として定義されています。これは、これらの値が IBM デプロイメント・アクション「IMM Config (Set)」によって変更できないことを意味します。

説明: 3650M2 および 3550M2 における値リストは、以下のようになっています。

```
IMM.LoginId.1=USERID
IMM.LoginId.10=
IMM.LoginId.11=
IMM.LoginId.12=
IMM.LoginId.2=
IMM.LoginId.3=
IMM.LoginId.4=
IMM.LoginId.5=
IMM.LoginId.6=
IMM.LoginId.7=
IMM.LoginId.8=
IMM.LoginId.9=
IMM.AuthorityLevel.1=Supervisor
IMM.UserAccountManagementPriv.1=No
IMM.RemoteConsolePriv.1=No
```

```
IMM.RemoteConsoleDiskPriv.1=No
IMM.RemotePowerPriv.1=No
IMM.ClearEventLogPriv.1=No
IMM.BasicAdapterConfigPriv.1=No
IMM.AdapterConfigNetworkSecurityPriv.1=No
IMM.AdvancedAdapterConfigPriv.1=No
IMM.HostName1=IMM-001A64E611FD
IMM.HostIPAddress1=9.123.299.52
IMM.HostIPSubnet1=255.255.255.0
IMM.GatewayIPAddress1=-
IMM.MACAddress1=00:00:00:00:00:00
```

noreplicate 設定について詳しくは、IBM Advanced Settings Utility (ASU) サポート・ポータルを参照してください。

処置: これらの値を変更しないでください。ASU では、noreplicate 設定の変更は許可されていません。

BootOrder 構成にデフォルト値を設定しようとしても失敗します。

症状: BootOrder 構成にデフォルト値を設定しようとしても、そのプロセスは失敗する場合があります。

説明: BootOrder にデフォルト値が割り当てられていない場合、デフォルト値を BootOrder 構成に設定するためのタスク・シーケンスは失敗します。

処置: サブシステムで BootOrder にデフォルト値が割り当てられていない場合は、BootOrder 構成にデフォルト値を設定しないでください。

いくつかの ASU コマンドが、いくつかのサーバーで失敗することがあります。

症状: 「generate, import」や「export security certificates」などのいくつかの ASU コマンドは、一部のサーバーで失敗する場合があります。

説明: オペレーティング・システム・デプロイメント (OSD) フィーチャーは、ASU を活用してハードウェア設定を構成します。いくつかのコマンドが、いくつかのサーバーで失敗することがあります。

処置: OSD 構成でエラーが出された場合は、ASU、ドライバー、およびファームウェアの制限を確認してください。

ASU サンプル・ファイルは単なる例であり、実際の構成に使用すべきではありません。

症状: サンプル・パラメーターを実際の構成で使用しても、それらのパラメーターは、タスク・シーケンスによって正しく構成されないことがあります。

説明: サンプル・ファイルは単なる例であるため、実際の構成における使用を目的としていません。さまざまなシステムで、さまざまなパラメーターが使用されます。

処置: さまざまなシステムにおけるパラメーターについて詳しく

は、ご使用のシステムを対象としたマニュアルを参照するか、IBM Advanced Settings Utility (ASU) サポート・ポータルにアクセスしてください。

ユーザー・アカウント制御 (UAC) がオンになっている場合は、インストールが失敗することがあります。

説明: 非組み込み管理者アカウントを使用して IBM Deployment Pack をインストールする場合、UAC をオフにしておかないと、そのインストールは失敗します。

処置: UAC をオフにしてください。詳しくは、次のリンクを参照してください: <http://windows.microsoft.com/en-US/windows-vista/Turn-User-Account-Control-on-or-off>

Microsoft System Center Configuration Manager 2007 のインストール・ディレクトリーを「Program Files」に変更した場合に、IBM Deployment Pack が x64 サーバー上の SCCM 2007 と連携しません。

説明: x64 サーバーでは、Microsoft System Center Configuration Manager 2007 はデフォルトで「Program Files (x86)」というディレクトリーにインストールされます。このディレクトリー名を「Program Files」に変更すると、IBM Deployment Pack は SCCM と連携することができません。

処置: Microsoft System Center Configuration Manager 2007 をデフォルトのインストール・ディレクトリー、または「Program Files」という名前ではないディレクトリーにインストールしてください。

IBM Deployment Pack は、Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーにインストールされていない場合、Microsoft System Center Configuration Manager コンソール専用サーバー上では動作しません。

説明: IBM Deployment Pack は、Microsoft System Center Configuration Manager 管理コンソールだけを持つサーバーにインストールできます。ただし、IBM Deployment Pack が Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーにもインストールされるまで、その機能は動作しません。

処置: IBM Deployment Pack を Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーにインストールした後で、Microsoft System Center Configuration Manager 管理コンソールにもインストールしてください。

IBM Deployment Pack を Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーからアンインストールしても、Microsoft System Center Configuration Manager コンソール専用サーバーからは削除されません。

説明: IBM Deployment Pack は、Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーからアンインストール

ールされても、Microsoft System Center Configuration Manager コンソール専用サーバーからは自動的にアンインストールされません。

処置: IBM Deployment Pack を Microsoft System Center Configuration Manager コンソール専用サーバーから手動でアンインストールしてください。

IBM Deployment Pack のバージョンが、Microsoft System Center Configuration Manager 管理コンソールと Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーとの間で異なっても、この相違はユーザーに通知されません。

説明: 異なるバージョンの IBM Deployment Pack を Microsoft System Center Configuration Manager 管理コンソールと Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーにそれぞれインストールすると、IBM Deployment Pack は管理コンソール上で正しく動作しません。異なるバージョンをインストールしても、通知を受けることはありません。

処置: IBM Deployment Pack を個別に Microsoft System Center Configuration Manager コンソールにインストールする場合は、そのバージョンが、Microsoft System Center Configuration Manager サイト・サーバーにインストールされているものと同じであることを確認してください。

IMM 1A0010X バージョンを持つ IBM System x3100M4 で、IMM の「デフォルト状態の設定 (Set Default State)」が失敗する場合があります。

説明: IMM 1A0010X がインストールされている IBM System x3100M4 で、IMM の「デフォルト状態の設定 (Set Default State)」アクション・タイプを選択するタスクが失敗することがあります。

処置: オペレーティング・システム・デプロイメント (OSD) フィーチャーは、ASU ツールを活用してハードウェア設定を構成します。OSD 構成でエラーが発生した場合は、IMM ファームウェアをアップグレードするか、または ASU、ドライバー、およびファームウェアにおける制限を調べてください。

WinPE 32 ビット・ブート・イメージが、特定の uEFI バージョンを持つシステムで障害を起こします。

説明: WinPE 32 ビット・ブート・イメージが、特定の uEFI バージョンを持つ以下のシステムで障害を起こします。

表 2. WinPE 32 ビット・ブート・イメージ障害の詳細

システム・ファミリー名	uEFI バージョン
x3850 X5 / x3950 X5	v1.50
x3690 X5	v1.40
BladeCenter HX5	v1.40

処置: uEFI バージョンを、より新しいバージョンにアップグレードしてください。

既知の問題および回避策

以下の既知の問題および回避策は、IBM Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 を対象としています。

SCCM 2012 SP1 を使用して「RAID 構成の設定 (Set RAID Config)」アクションまたは「ベア・メタル・サーバー・デプロイメント」を実行すると、テスト・シーケンス・エラー (0x00000001) が発生します。

症状: RAID 構成の実行時に、このアクションまたはタスク・シーケンスが失敗する場合があります。これは、スクラッチ・スペース・サイズが、さらにアクションを実行するには小さすぎることが原因です。

回避策:

これは SCCM 2012 SP1 の既知の問題です。問題を解決するには、以下の手順でスクラッチ・スペースを増加してください。

1. タスク・シーケンスで使用されるブート・イメージを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
2. 「カスタマイズ」タブに移動し、「Windows PE スクラッチ・スペース (Windows PE Scratch Space)」のサイズに 64 以上を選択します。

WinPE が、ロード後すぐにリポートされ、タスク・シーケンスの実行に失敗します。WinPE がロード直後にリポートされ、IBM server Flex System x220 コンピュータ・ノードおよび System X iDataPlex® dx360 M4 にデプロイできません。WinPE がその IP アドレスを獲得する前にタスク・シーケンスが実行されるため、デプロイメントは失敗します。これは WinPE ネットワーク・ドライバーの既知の問題です。

回避策:

以下の手順で、タスク・シーケンスを続行してください。

1. WinPE のロード後、**F8** をクリックしてコマンド・ウィンドウを開きます。
2. `ipconfig /renew` コマンドを実行して、WinPE が IP アドレスを獲得していることを確認します。
3. `x:%sms%bin%<architecture>%tsbootshell.exe` を実行して、タスク・シーケンスを再開します。

Get BIOS アクションが、BIOS バージョンのより低いシステムで失敗する場合があります。

「構成」アクション・タイプとして「BIOS Config」が選択され、「アクション」タイプとして「Get」が選択されている IBM カスタマイズ・アクションを作成すると、GetBIOS アクションで BIOS 情報を取得できないことがあります。

回避策:

BIOS バージョンを、より新しいバージョンにアップグレードしてください。

パッケージが更新されないことを示すエラー・メッセージが **System Center Configuration Manager 2007** で誤って表示されます。このメッセージは、「ドライバー・パッケージのドライバーの追加または削除 (Add or remove drivers to a driver package)」機能を使用して、ドライバーが含まれていない 1 つ以上のドライバー・パッケージから複数のドライバーを削除しようとするときに出されます。

「ドライバー・パッケージへのドライバーの追加または削除 (Add or remove drivers to a driver package)」機能でドライバーを除去した後、次のメッセージが表示されることがあります。

Some packages cannot be updated.
Please see the log file for more information.

このメッセージは無視しても構いません。このメッセージは、ドライバーがパッケージから正常に削除されたこと、またはドライバーがパッケージに正常に追加されたことを正しく示していません。

ドライバーを削除する同じ操作の間に、1 つ以上のパッケージを選択することによって、または無効なパッケージを選択したままにしておくことによって、1 つ以上のパッケージに対してドライバーの追加も行った場合に、正常にドライバーがパッケージに追加されたことはメッセージでは示されません。実際には、このメッセージは、ドライバーが含まれていないパッケージからドライバーを削除しようとした場合にのみ表示されます。

このメッセージはドライバーの削除によって出されるもので、ドライバーの追加には無関係です。例えば、1 つのドライバーが含まれているがすべてのドライバーが含まれているわけではないパッケージ (パッケージ・チェック・ボックスが選択されているが無効になっている) にドライバーの追加のみを試みた場合、メッセージは表示されません。

以下の除去手順を実行すると、このメッセージが表示されることがあります。ドライバーの追加も行うかどうかは関係ありません。

1. 「System Center Configuration Manager」 > 「サイト データベース」 > 「コンピュータの管理」 > 「オペレーティング システムの展開 (Operating System Deployment)」 > 「ドライバ」 > 「IBM Server Drivers」を選択する。
2. 複数のドライバーを選択してから、選択したドライバーのいずれかを右クリックし、「ドライバー・パッケージへのドライバーの追加または削除 (Add or remove drivers to a driver package)」をクリックする。1 つのドライバーが含まれているがすべてのドライバーが含まれているわけではないドライバー・パッケージは、無効で選択済みのチェック・ボックスとともに表示されます。
3. 「ドライバー・パッケージのドライバーの追加または削除 (Add or remove drivers to a driver package)」 ページで無効ドライバー・パッケージのチェック・ボックスをクリアするか、「すべてクリア (Clear All)」をクリックして (無効パッケージも含む) すべてのチェック・ボックスをクリアし、選択したドライバーをパッケージから削除する。
4. 「OK」をクリックする。いずれかのパッケージが無効だった (つまり、選択されたドライバーの 1 つが入っているが、すべてが入っているわけではない) 場合は、エラー・メッセージが表示されます。

5. 開いたウィンドウで「OK」をクリックしてから、「キャンセル」をクリックして「ドライバー・パッケージのドライバーの追加または削除 (Add or remove drivers to a driver package)」ページを終了する。エラー・メッセージは、ドライバー・パッケージからのドライバーの除去には関係ありません。このメッセージは実際、いくつかのパッケージに選択済みドライバーが入っていなかったため、ドライバーをパッケージから除去できなかったことを示します。実際には、すべてのパッケージが正しく更新されているため、このメッセージが表示されることはありません。

IBM Deployment Pack では、**IBM Advanced Settings Utility** コマンド構文が正しいかどうかを検査しません。

IBM Deployment Pack は、ASU を使用していくつかの構成設定を処理します。しかし、IBM Deployment Pack は ASU コマンド構文を検査しません。正しくない構文で ASU コマンドが入力されても、IBM Deployment Pack はそのコマンドをターゲット・マシンに渡すため、OSD シーケンスは失敗します。

回避策:

ASU コマンド構文が正しいことを確認してください。ASU コマンドについて詳しくは、IBM Advanced Settings Utility (ASU) サポート・ポータルを参照してください。

System Center Configuration Manager 2007 をアンインストールまたは再インストールした後、タスク・シーケンス・エディターにメニュー項目「提供」がありません。以下の理由で、タスク・シーケンス・エディターから「提供」メニュー項目が欠落することがあります。

- ブート・イメージがタスク・シーケンスに割り当てられていない。
- タスク・シーケンスにおけるブート・イメージのパッケージ ID が、アンインストールまたは再インストールの間に変更された。

回避策:

- ブート・イメージがタスク・シーケンスに割り当てられていない場合は、割り当ててください。
- 既にブート・イメージが割り当てられている場合は、タスク・シーケンスを編集および保存してから、そのタスク・シーケンスを右クリックして「最新の情報に更新」をクリックしてください。

IBM Deployment Pack を再インストールした後、既存のタスク・シーケンスが動作しません。

IBM Deployment Pack の再インストール後、既存のタスク・シーケンスがクライアント・マシンで動作しません。「Failed to resolve the source for SMS package_ID...」など、いくつかのエラー・メッセージが表示されます。

パッケージ ID は再インストール後に変更されます。そのため、既存のタスク・シーケンスで参照されているパッケージ ID を更新する必要があります。

回避策:

1. タスク・シーケンスを編集モードで開きます。

2. そのタスク・シーケンスに小さな変更 (例えば、スペースを説明フィールドに追加) を加えます。
3. 「適用」をクリックします。そのタスク・シーケンスにあるパッケージ ID が更新されます。

IBM Deployment Pack をアンインストールまたは再インストールした後、「Diskpart clean」タスクおよび「ドライバ パッケージの適用」タスクを再度割り当てる必要があります。

「タスク シーケンス」ウィザードで作成された既存のタスク・シーケンスでは、アンインストールまたは再インストールの後で「Diskpart clean」および「ドライバ パッケージの適用」タスクを割り当て直す必要があります。

これは、OSD における通常の動作です。

回避策:

IBM Deployment Pack の再インストール後またはアンインストール後にタスク・シーケンス・エディターを開いて、赤いフラグをクリアすることにより、「Diskpart clean」および「ドライバ パッケージの適用」タスクを再構成してください。

Microsoft System Center Configuration Manager サーバーが既にアンインストールされている場合、**IBM Deployment Pack** のアンインストールは失敗します。

Microsoft System Center Configuration Manager サーバーをアンインストールした後に IBM Deployment Pack をアンインストールすると、IBM Deployment Pack のアンインストールは失敗します。

回避策:

IBM Deployment Pack をアンインストールした後に、Microsoft System Center Configuration Manager サーバーをアンインストールしてください。

タスク・シーケンスでのアカウントおよびパスワードの設定は、**Windows 2003** オペレーティング・システムでは機能しません。

IBM ベア・メタル・タスク・シーケンスを作成して、Windows 2003 オペレーティング・システム・イメージをデプロイする場合、アカウントとパスワードを「**Windows 設定の適用 (Apply Windows Setting)**」パネルで設定することができます。ただし、そのアカウントとパスワードは、オペレーティング・システムのデプロイ後に有効になりません。

デプロイメント・プロセスの実行中はアカウントとパスワードを変更できないことを示すエラー・メッセージが、クライアント・マシンで表示されます。

回避策:

Windows 2003 イメージを参照コンピューターから取り込む場合、ローカル管理者パスワードをブランクに変更する必要があります。

手動で Sysprep を実行する場合、管理者パスワードもブランクとして構成してください。

詳しくは、『How to Capture an Image from a Reference Computer by Using Capture Media』を参照してください。

RAID 構成 (ini ファイル) の GET アクションを使用すると、「これらの追加のコマンド行パラメーターを使用する」のオプションが不要になる場合があります。

タスク・シーケンスを作成して RAID をサーバーから取得する際に、「これらの追加のコマンド行パラメーターを使用する」チェック・ボックス・グループが表示されますが、これは不要と考えられます。smsts.log ファイル内のエラー・コードを取得したい場合は、このチェック・ボックス・グループを使用してこれらのパラメーターを設定できます。

以下の 3 つのパラメーターのいずれかを選択できます。

- /e2** サポートされている RAID コントローラーがシステムに見つからない場合、エラー・コード **2** を返します。 **PRAID** はデフォルトで、コントローラーがシステムに見つからなくてもエラーを返しません。
- /e3** 少なくとも 1 つのコントローラーにドライブが接続されていない場合、エラー・コード **3** を返します。 **PRAID** はデフォルトで、ドライブが RAID コントローラーに接続されていなくてもエラーを返しません。
- /v:n** 冗長レベルを設定します。 *n* の説明:
 - 0** - 静止
 - 3** - デフォルト
 - 5** - 最大

回避策:

これらのパラメーターが必要なければ、このチェック・ボックス・グループは無視してください。PRAID パラメーターについて詳しくは、「*IBM ServerGuide Scripting Toolkit, Windows Edition (User's Reference)*」を参照してください。

Microsoft System Center Configuration Manager サーバーを再始動した後、PXE ブートがクライアント・マシンで失敗します。

Microsoft System Center Configuration Manager サーバーの再始動後、PXE ブートがクライアント・マシンで失敗し、エラー・メッセージ「TFTP Error, File not found」が出されます。

Microsoft System Center Configuration Manager サーバー上の PXE ブート・ファイルは、再始動の後に削除されるため、PXE ブートは行われません。

回避策:

Microsoft System Center Configuration Manager サーバーを再始動した後で、以下の手順に従ってください。

1. Windows 展開サービス (WDS) を停止します。
2. *windows%Temp* フォルダを削除または名前変更し、新しい *windows%Temp* フォルダを作成します。
3. WDS を再始動します。

詳しくは、記事「[Microsoft TechNet Forum: Configuration Manager – Operating System Deployment](#)」を参照してください。

IBM ベア・メタル・タスク・シーケンスを作成しているときに、エラー・メッセージが表示されることがあります。

IBM ベア・メタル・タスク・シーケンスを作成しているときに、エラー・

メッセージ「CreateTaskSequenceTemplate: Unable to add the task sequence to the task sequence package」が表示されることがあります。

「OK」をクリックすると、もう 1 つのエラー・メッセージ「CreateTaskSequenceTemplate: Could not create task sequence package」が表示されます。

回避策:

Microsoft System Center Configuration Manager サーバーを再始動してから、タスク・シーケンスの作成を再試行してください。

タスク・シーケンスの作成中に「今は選択しない」を選択すると、タスク・シーケンスが自動的にオペレーティング・システム・イメージを選択します。

タスク・シーケンスを作成しているときに、オペレーティング・システム・イメージ選択として「今は選択しない」を選択すると、タスク・シーケンスはデフォルトで、作成された後で何らかの有効なオペレーティング・システム・イメージを選択します。このタスク・シーケンスを適用すると、いくつかのフィールドに無効な値があることを示すエラー・メッセージが表示されます。

回避策:

この問題は、デフォルトのオペレーティング・システム選択メカニズムが原因で発生します。この問題を解決するには、もう一度デフォルト・オペレーティング・システムを選択し、「OK」をクリックし、さらに「適用」をクリックしてください。

グループが無効になっていても、タスク・シーケンス編集の間にサブ項目を検査する必要があります。

タスク・シーケンスを編集するとき、グループを無効にしている場合、そのグループのサブ項目を検査する必要があります。

回避策:

サブ項目の適切な値を選択し、それらをエラー・アイコンに応じて検査し、タスク・シーケンスを適用してください。

すべてのフィールドに有効な値が入っていても、「ログ/戻りファイル」タブにエラーが表示されます。

IBM タスク・シーケンスで取得アクションを構成しようとする場合、すべてのフィールドに有効な値が含まれていても、「ログ/戻りファイル」タブにエラー・アイコンが表示されます。この場合、「適用」または「OK」をクリックしても、構成を保存することはできません。

回避策:

このタブで別のフィールド (テキスト・ボックスなど) をクリックすると、エラー・アイコンは消えます。これで、構成設定を保存できるようになります。

いくつかのフィールドが欠落しているため、赤いエラー・アイコンが表示されていても、タスク・シーケンスを保存することができます。

いくつかのフィールドにエラーがある新しいタスク・シーケンスを生成すると、そのタスク・シーケンスは起動することも閉じることもでき、メッセージは出されません。このタスクでは、タスク・エディターが閉じるまでエラー検査は行われません。

回避策:

このタブで別のフィールド (テキスト・ボックスやチェック・ボックスなど) をクリックすると、エラー・アイコンは消えます。これで、構成設定を保存できるようになります。

IBM Deployment Pack で「**RAID 構成の設定 (Set RAID Config)**」タスクを実行するためには、ディスクがアクティブまたは **unconfig good** 状態であればなりません。ディスク状態がアクティブでも **unconfig good** でもなければ、「**RAID 構成の設定 (Set RAID Config)**」タスクは失敗します。ディスク状態は、**WEBBIOS/RAID 構成ページ**で調べることができます。

回避策:

リポートしてから、**WEBBIOS/RAID 構成**でディスクをアクティブ状態に設定してください。

タスク・シーケンスの「**ドライバー・パッケージの適用 (Apply Driver Package)**」ステップでドライバーが選択されていない場合は、**Windows 2003 オペレーティング・システムをターゲット・コンピューターにデプロイできません**。

タスク・シーケンスの「**ドライバ パッケージの適用**」ステップで特定のドライバーを選択しなかった場合、**Windows 2003 オペレーティング・システム・デプロイメント**が失敗し、**ブルー・スクリーン**が表示されることがあります。

回避策:

ターゲット・コンピューターに **RAID カード**があれば、タスク・シーケンスの「**ドライバ パッケージの適用**」で、適切な **RAID ドライバー**を選択してください。ターゲット・コンピューターに **RAID カード**がなければ、ハードウェアが同じで **RAID ドライバー**がないターゲット・コンピューターから取り込まれた **オペレーティング・システム・イメージ**をデプロイしてください。その後で「**ドライバ パッケージの適用**」を無効にして、**オペレーティング・システム・イメージ**で **Windows 2003** をデプロイしてください。

アカウントに **SCCM 管理者権限**がない場合、**アンインストール操作**によって **コンポーネントのすべて**が除去されるわけではありません。

SCCM 管理者権限がない状態で **IBM Deployment Pack** の **アンインストール**を試みても、**アンインストール**によって **コンポーネントのすべて**が削除されるわけではありません。 **IBM Deployment Pack** は「**プログラムの追加と削除 (Add/Remove program)**」リストで削除することができますが、**Microsoft SCCM コンソール**に **パッケージ**、**ドライバー**、およびその他の **ドライバー・パッケージ項目**が残ります。 **IBM Deployment Pack** を **アンインストール**するには、**アカウント**が **システム管理者グループ**と **SCCM 管理者グループ**に属していることを確認してください。

回避策:

システム管理者および **SCCM 管理者権限**がある状態で **IBM Deployment Pack** を削除してください。

IBM Deployment Pack の **アンインストール**後、いくつかの **ファイル**が **インストール・フォルダー**に残ります。

IBM Deployment Pack が **アンインストール**された後でも、**インストール・フォルダー**内のいくつかの **ファイル**が削除されていません。

回避策:

ファイルは、手動で削除してください。

先に **IBM Deployment Pack v4.5** がインポートされていないと、**IBM Deployment Pack v1.3** をインポート・ウィザードによって直接削除することができません。

IBM Deployment Pack を v1.3 から v4.5 にアップグレードしても、v4.5 コンポーネントを Configuration Manager にインポートしないと、旧バージョンの IBM Deployment Pack をインポート・ウィザードで削除することはできません。

回避策:

- ステップ 1: IBM Deployment Pack v1.3 を手動で削除します。詳しい手順については、**ユーザズ・ガイド**でトラブルシューティングに関するセクションを参照してください。
- ステップ 2: ウィザードを使用して IBM Deployment Pack v4.5 をインポートしてから、この v4.5 をウィザードで削除します。これで、同時に IBM Deployment Pack 1.3 も削除されます。

IBM Deployment Pack がインポート・ウィザードを使用して、またはアンインストール・プロセス中に削除された場合、**Configuration Manager** インストール・パスにあるインポート済みファイルのいくつかは削除されることがあります。

IBM Deployment Pack をインポート・ウィザードを使用して、またはアンインストール・プロセス中に削除した後、**Configuration Manager** インストール・パスにあるインポート済みファイルのいくつかは削除されることがあります。

回避策:

次のインポートまたはインストールに影響はありません。マシンを再始動して、ファイルを手動で削除してください。詳しくは、**ユーザズ・ガイド**でトラブルシューティングに関するセクションを参照してください。

IBM Deployment Pack がインポート・ウィザードを使用して、またはアンインストール・プロセス中に削除された後、**Configuration Manager** コンソール内のメニューのいくつかは削除されることがあります。

IBM Deployment Pack をインポート・ウィザードを使用して、またはアンインストール・プロセス中に削除した場合、**IBM Deployment Pack** のインポート時に生成された、**Configuration Manager** コンソール内のメニューのいくつかは削除されることがあります。

回避策:

次のインポートまたはインストールに影響はありません。これらのファイルを手動で削除し、**Configuration Manager** コンソールを再始動してください。詳しくは、**ユーザズ・ガイド**でトラブルシューティングに関するセクションを参照してください。

最初のコントローラーが **RAID** ポリシーに一致しないと、残りのコントローラーがスキップされます。

「RAID 構成の設定 (Set RAID Config)」タスクを使用して複数の RAID コントローラーがあるターゲット・コンピューターに RAID ポリシーを適用する際に、最初のコントローラーが RAID ポリシーに合致しない場合、残りのコントローラーはすべてスキップされます。

回避策:

コントローラーのロット番号を RAID ポリシーに追加することによって、それらのコントローラーを指定してください。

hotfix979492 がインストールされていない Windows Server 2008 では、組み込みパッケージを SCCM 2007 SP2 にインポートできません。

Windows Server 2008 において、「組み込みパッケージのインポート」ステップが失敗したものとしてインポート・ウィザードで報告されることがあります。多くの場合、Windows hotfix979492 がサーバーにインストールされていないことが原因です。この問題によって、いくつかのドライバーが SCCM サーバーにインポートされません。

回避策:

hotfix979492 (<http://support.microsoft.com/kb/979492>) を Windows Server 2008 にインストールしてから、もう一度、インポート・ウィザードで IBM パッケージを SCCM にインポートしてください。

IBM Deployment Pack を「コントロール パネル」で削除する際、Windows Server 2008 R2 の背景にメッセージ・ウィンドウが表示されます。

IBM Deployment Pack が SCCM サーバーにインポートされていると、IBM Deployment Pack を「コントロール パネル」でアンインストールする際に、メッセージ・ウィンドウが表示されます。メッセージ・ボックスは Windows Server 2008 R2 の削除バーの背後に表示されています。

回避策:

これは既知の問題で、次のリリースで修正される予定です。

IBM の「ベア・メタル・サーバー・デプロイメント」タスク・シーケンスを作成する際に、ブート・イメージが自動的に選択されません。

IBM の「ベア・メタル・サーバー・デプロイメント」タスク・シーケンスを作成する際に、タスクでブート・イメージが自動的に選択されません。

回避策:

これは既知の問題です。以下の手順で新しいブート・イメージを選択できます。

1. 作成したタスク・シーケンスを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
2. 「詳細 (Advance)」タブに切り替えて、「ブート イメージを使用する」チェック・ボックスを選択してから、ブート・イメージを見つけて選択します。

LSI-SAS RAID コントローラーを持つマシンに Windows 2003 オペレーティング・システム・イメージをデプロイする際に、エラー・メッセージ「Failed to find driver for 'PCI\VEN_1000&DEV_005E」が表示されます。

LSI-SAS RAID コントローラーを持つマシンに Windows 2003 オペレーティング・システム・イメージをデプロイする際に、タスク・シーケンスで「LSI Adapter, SAS 3000 series, 4-port with 1064 -StorPort」ドライバーを選択すると、オペレーティング・システムのデプロイメントが失敗することがあります。「Failed to find driver for PCI\VEN_1000&DEV_005E」などのエラーが smsts.log ファイルにあります。

回避策:

これは既知の問題です。この問題を解決するには、以下の手順に従ってください。

1. SCCM コンソールで、「LSI Adapter, SAS 3000 series, 4-port with 1064 -StorPort」ドライバーをドライバー・フォルダーから削除します。
2. ディレクトリー ¥Microsoft Configuration Manager¥OSD¥lib¥Drivers¥IBM¥Server¥builtin¥win2003_x86_2011-03-14¥Isisas¥ に移動します。
3. ファイル「txtsetup.oem」を開いて、次の 2 行を除去します。

```
id = "PCI¥VEN_1000&DEV_005E", "lsi_sas"
id = "PCI¥VEN_1000&DEV_005A", "lsi_sas"
```
4. ドライバー「Isisas」を SCCM にインポートし、そのドライバーをもう一度「IBM Windows 2003 X86 ドライバー (IBM Windows 2003 x86 Drivers)」パッケージに追加します。
5. ドライバー・パッケージを「配布ポイント」に更新し、タスク・シーケンスを更新し、もう一度 OS デプロイメントを実行してください。

IBM Deployment Pack をアンインストールしている間に「キャンセル」ボタンをクリックすると、予期しないエラーが発生することがあります。

IBM Deployment Pack をアンインストールしている間に「キャンセル」ボタンをクリックすると、いくつかの情報をロールバックできないことがあります。IBM Deployment Pack を再度アンインストールすることはできません。

回避策:

これは既知の問題です。Microsoft Windows Installer CleanUp Utility を使用して、残っている情報をクリーンアップしてください。Installer CleanUp Utility について詳しくは、<http://gallery.technet.microsoft.com/MSI-cleanup-utility-3889c8db> を参照してください。

アンインストールを確認するウィンドウが、インストール・プログラムの処理バーに妨害されることがあります。

問題: システム制御パネルから製品をアンインストールする際、アンインストール・プロセスの終わりで確認ウィンドウが開きます。ただし、処理バーによってアンインストールの確認が妨げられます。

解決策:

- 下にあるアンインストール確認ウィンドウをクリックしてアクティブにし、次に「OK」をクリックしてアンインストールを完了します。
- 「スタート」メニューからアンインストール・ショートカット・オプションを使用して製品をアンインストールします。この方法では、確認メッセージ・ウィンドウは妨害されません。

IBM Deployment Pack v5.0 および Configuration Manager 2007 または 2012 を使用して IBM NeXtScale Node 5455 サーバーを管理およびデプロイできません。

問題: IBM Deployment Pack v5.0 および Microsoft System Center Configuration Manager 2007 または 2012 を使用して IBM NeXtScale Node 5455 サーバーを管理およびデプロイするときに、タスク・シーケンスがクライアント・サーバーで異常終了します。

解決策:

IBM Deployment Pack v5.0 を使用して IBM NeXtScale Node 5455 サーバーを管理およびデプロイする場合は、Microsoft System Center Configuration Manager 2012 バージョン SP1 以降をインストールしてください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、PostScript は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Cell Broadband Engine、Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Intel、Intel Xeon、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。



Printed in Japan